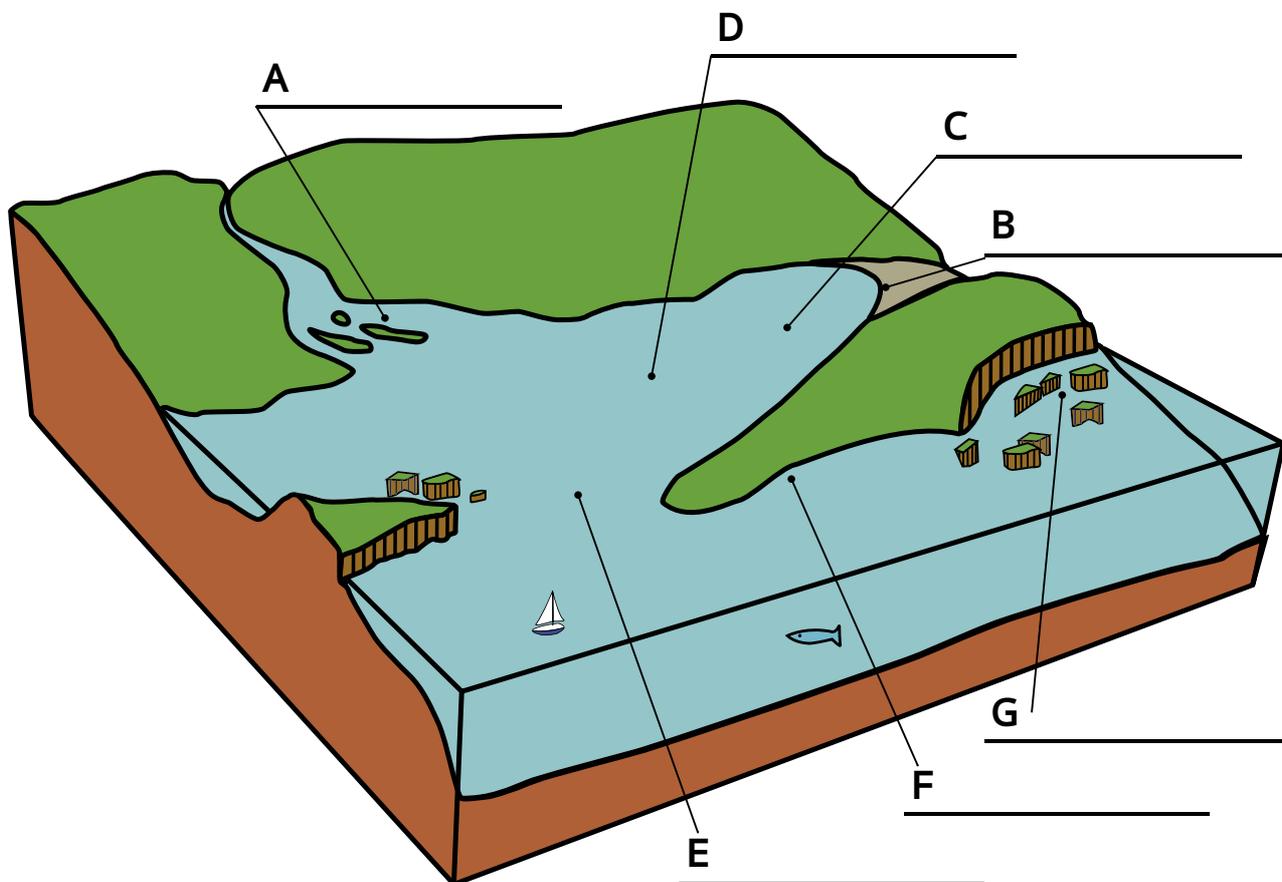


ないわん えんがん  
**内湾と沿岸の環境と貝**



内湾と沿岸における貝類群集ごとの環境。次のページなどを参考にA～Gにいる貝の名前を入れてみよう

**浅い海のどなたとどなた  
 貝たちが生活しているかな？**

よくみると身近な海にもいろいろな環境のちがいがあります。そして、その環境のちがいに応じてさまざまな種類の貝たちが生活しています。

上の図では、内海（内湾）を中心に代表的な7つの環境の場所を示しています。Aは、川が海に注ぐ河口近くの場所です。海水と淡水が混じる環境です。Bは、内湾の奥などに広がる泥底の干潟です。Cは、内湾の奥から中央の砂底の場所、Dは、内湾でも中央付近で、水深が大きい泥底の場所で

す。Eは、内湾と外洋にかけての湾口部です。潮の流れが速く砂礫底となる場所です。Fは、外洋に面した沿岸で砂底が広がる浜です。Gは、外洋に面し岩場の多い岩磯の場所です。この7つの環境にはそれぞれに特徴的な貝がすんでいます。

貝が生活する場所を決めるいくつかの環境の重要な要素があります。それは、ア) 海底の底質（砂や泥といった底にたまっているもののちがい）、イ) 海の深さ（水深のちがい）、ウ) 海水温、エ) 塩の濃度（塩辛さ）などです。

エフエフ・アール・エフ エフエフ・アール・エフ エフエフ・アール・エフ  
 エフ・アール・エフ・エフ・エフ エフ・アール・エフ・エフ エフ・アール・エフ・エフ  
 エフ・アール・エフ・エフ・エフ エフ・アール・エフ・エフ エフ・アール・エフ・エフ

## 縄文時代のおぼれ谷

おぼれ谷とは、陸地の谷が海面下に沈んでつくられた湾のことです。2万年前は海面の高さが現在より低かったため、現在よりも陸上の谷が深く削られていました。その深い谷を埋めるように縄文海進時におぼれ谷がつけられていったのです。

### 参考文献

松島義章, 1984. 日本列島における後水期の浅海性貝類群集 - 特に環境変遷に伴うその時間・空間的変遷 -, 神奈川博研報 (自然科学).

## 内湾と沿岸の貝類群集の区分

およそ6000年前に縄文海進のピークをむかえ、神奈川県でも谷に沿って海が内陸まで入り込んでいました。各地におぼれ谷がつけられました。おぼれ谷では、外海の波の影響を受けず、まわりの陸から堆積物がもたらされます。湾の奥に泥底の干潟がみられたり、湾の中央で泥底の環境がみられるのはこのためです。

このような縄文海進によって各地につくられた内湾や沿岸では、干潟、砂底の内湾、泥底の内湾、沿岸の砂浜などの環境がみられました。それぞれ環境ごとに特徴的な貝たちが生活しています。

縄文時代のおぼれ谷の地層からは、二枚の殻がそろった状態で貝化石が見つかることがあります。

この貝化石は生息していた場所で化石になったことを示しています。見つかった貝化石がハマグリやアサリだとしたらどのようなことがいえるでしょう？ ハマグリやアサリは内湾の中の干潟かそれより少し深い砂底、すなわち内湾砂底の環境に生活しています。つまりは、ハマグリやアサリが見つかった地層は、内湾砂底であったということが出来ます。

このように生息地で埋もれた貝化石を多く見つけることで、縄文時代の内湾の様子をくわしく復元することができます。内湾や沿岸の環境に応じて貝類群集が分布しているからなのです。

下の表は、貝の生活場所の環境のちがいにより11の貝類群集に区分したものです。

内湾および沿岸での生息環境と貝類群集の区分 (松島, 1984 に加筆)

水域	沿岸水			内湾水							
	湾の外側			湾口部	波食台	湾中央部		湾奥部	河口		
底質	岩礁	砂泥質	砂質	砂礫質	岩礁	砂質	シルト~泥質	砂泥質	砂泥質		
潮間帯	<b>10) 外海岩礁性群集</b> サザエ、アワビ、クボガイ、バテイラ、カコボラ			<b>5) 内湾岩礁性群集</b> オオヘビガイ、キクザルガイ、マガキ、穿孔貝類			<b>3) 内湾砂底群集</b> ハマグリ、カガミガイ、シオフキ、イボキサゴ、アサリ、サルポウ		<b>2) 干潟群集</b> マガキ、ウネナシ、トマガイ、ハイガイ、オキシジミ、イボウミナ		<b>1) 感潮域群集</b> ヤマトシジミ、カワザンショウ、ヌマコダキガイ
上部浅海带	<b>9) 沿岸砂底群集</b> ベンケイガイ、チョウセンハマグリ、ダンベイキサゴ、コタマガイ、ワスレガイ			<b>6) 砂礫底群集</b> イワガキ、イタボガキ、ウチムラサキ、イボキサゴ			<b>4) 内湾泥底群集</b> ウラカガミ、イヨスタレ、アカガイ、トリガイ、シズクガイ		<b>7) 藻場群集</b> チグサガイ、シマハマツボ、マキミノ、スズメモツボ		シマハマツボ、マキミノ、スズメモツボ
	<b>11) 沿岸砂底群集</b> イタヤガイ、マツヤマウスレ、ヤツシロガイ、ナガニシ、テングニシ								<b>8) 内湾停滞域群集</b> シズクガイ、チヨノハナガイ、ケトリガイ、ヒメカノコアサリ、マメウラシマ		チヨノハナガイ